

野菜の需給・価格動向レポート(平成25年7月1日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	5月の価格情報		6月の価格情報		生育及び価格の7月の見通し				
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック平均販売価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック平均販売価格					
	下旬		上旬	中旬					
葉 茎 菜	キャベツ 	88.05	43	67.2	64	79	・入荷見込量: 14,280t (95) ・主産地: 群馬 (63)、岩手 (14)、茨城 (7)	・群馬産は、5月の少雨と低温のため、生育が遅れが見られ少なめの出荷量となっているものの、今後は最近の適雨で生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、中旬からまとまった量の出荷となるものの、少雨のため、小玉傾向の出荷となる見込み。茨城産は、順調な出荷となっているものの、出荷の終盤を迎え出荷量が減少する見込み。 ・群馬産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		83.73	47	81.66	65	90	・入荷見込量: 3,800t (96) ・主産地: 群馬 (45)、長野 (40)		
	ねぎ 	264.1	340	264.1	331	372	・入荷見込数量: 4,050t (100) ・主産地: 茨城 (66)、千葉 (13)、埼玉 (6)、輸入 (5)	・茨城産は、少雨の影響で細め傾向でかつ品質低下が見られ、今後は平年をやや下回る出荷となる見込み。千葉産も、少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		334.73	309	334.73	338	398	・入荷見込数量: 220t (95) ・主産地: 香川 (32)、徳島 (19)、三重 (11)、大阪 (9)、奈良 (8)、高知 (8)		
	はくさい 	67.05	25	67.05	37	69	・入荷見込量: 5,670t (100) ・主産地: 長野 (85)	・長野産は、最近の適雨により、生育が回復し順調な出荷となっており、今後は出荷量が徐々に増加する見込み。 ・長野産の出荷が潤沢と見込まれることから、価格は、平年を下回って推移する見込み。	
		77.96	57	77.96	60	75	・入荷見込量: 2,700t (99) ・主産地: 長野 (99)		
	ほうれんそう 	376.1	305	376.1	362	409	・入荷見込量: 1,050t (98) ・主産地: 栃木 (26)、群馬 (23)、茨城 (17)、岩手 (14)	・栃木産は、順調な生育で、今後も順調な出荷の見込み。群馬産は、最近の曇天の影響で生育が停滞し少なめの出荷となっているものの、中旬から出荷量が増加する見込み。茨城産は、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、少雨のため少なめの出荷となっている。 ・群馬産及び岩手産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。	
		396.89	405	396.89	429	543	・入荷見込量: 410t (96) ・主産地: 岐阜 (85)、北海道 (11)		
	レタス 	156.23	100	120.13	107	91	・入荷見込量: 9,610t (100) ・主産地: 長野 (85)、群馬 (11)	・長野産は、最近の適雨により、生育が回復し順調な出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、作柄が良好で順調な出荷となり、今後は平年並みの出荷の見込み。 ・潤沢な出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		165	106	125.61	114	90	・入荷見込量: 1,950t (100) ・主産地: 長野 (99)		
	たまねぎ 	71.02	61	71.02	73	81	・入荷見込量: 9,140t (110) ・主産地: 佐賀 (40)、兵庫 (29)、輸入 (3)、香川 (3)	・佐賀産は、中晩生の出荷となり、田植えの作業も終了したことから、今後は順調な出荷となる見込み。兵庫産は、生育時の少雨の影響でやや小玉傾向なものの作柄は良く、今後は順調な出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		71.02	65	71.02	83	88	・入荷見込量: 3,600t (105) ・主産地: 兵庫 (91)		
果 菜	きゅうり 	189.84	140	189.84	261	236	・入荷見込量: 7,870t (100) ・主産地: 福島 (35)、岩手 (12)、秋田 (12)、埼玉 (7)、宮城 (5)	・福島産は、適雨により生育が回復傾向で順調な出荷となり、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、少雨のため、少なめの出荷の見込み。秋田産も、平年並みの出荷の見込み。 ・福島産及び秋田産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回って推移している価格は、平年並みに近づく見込み。	
		177.22	129	177.22	272	216	・入荷見込量: 2,000t (100) ・主産地: 福島 (31)、愛媛 (21)、北海道 (20)、香川 (7)		
	トマト 	209.59	226	209.59	233	276	・入荷見込量: 8,870t (100) ・主産地: 青森 (15)、栃木 (14)、茨城 (10)、千葉 (9)、福島 (7)、群馬 (7)、岩手 (7)、秋田 (5)	・青森産は、日照量にも恵まれ順調な生育、出荷となり、今後は出荷量が増加する見込み。栃木産は、出荷の終盤を迎え減少傾向ではあるものの、着果が良く、平年を上回る出荷となっている。茨城産は、平年並みの出荷となっており、中旬までは安定した出荷量となる見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		228.53	230	228.53	240	290	・入荷見込量: 1,800t (105) ・主産地: 北海道 (28)、岐阜 (14)、熊本 (11)、愛知 (9)、石川 (8)、岡山 (7)		
	なす 	297.07	264	297.07	294	307	・入荷見込量: 4,430t (102) ・主産地: 群馬 (28)、栃木 (23)、茨城 (22)、埼玉 (8)	・群馬産は、高冷地への産地の切り替わり時期になり、低温のため生育が遅れているため、少なめの出荷の見込み。栃木産は、生育が順調で、平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。	
		271.01	262	271.01	267	259	・入荷見込量: 1,100t (105) ・主産地: 山梨 (20)、徳島 (19)、大阪 (17)、奈良 (10)、京都 (9)		
	ピーマン 	308.36	218	251.5	197	314	・入荷見込量: 2,020t (100) ・主産地: 茨城 (67)、岩手 (20)	・茨城産は、最近の曇天の影響で少なめの出荷となっており、中旬までは少なめの出荷の見込み。岩手産は、平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。	
		283.1	176	266.65	180	318	・入荷見込量: 370t (94) ・主産地: 兵庫 (19)、宮崎 (15)、北海道 (13)、大分 (13)、高知 (11)		
	根 菜	だいこん 	86.59	55	86.59	69	71	・入荷見込量: 8,530t (98) ・主産地: 北海道 (51)、青森 (40)	・北海道産は、5月の曇天や低温の影響で生育が遅れていたものの、今後は生育が回復し本格的な出荷となる見込み。青森産は、少雨と高温のため、正品率の低下や抽苔が見られ、出荷量は平年を下回って推移する見込み。 ・青森産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回って推移している価格は、平年並みに近づく見込み。
			94.24	51	94.24	68	75	・入荷見込量: 2,900t (98) ・主産地: 北海道 (69)、青森 (18)、岐阜 (11)	
		にんじん 	156.99	119	133.01	132	135	・入荷見込量: 6,290t (100) ・主産地: 青森 (42)、千葉 (29)、北海道 (22)、輸入 (5)	・青森産は、出荷開始を迎え、順調な生育で、平年並みの出荷となっており、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、順調な出荷となっているものの、出荷の終盤を迎え、今後は出荷量が減少する見込み。北海道産は、下旬から出荷が開始となる見込み。 ・青森産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
			148.36	94	132.62	109	115	・入荷見込量: 2,000t (94) ・主産地: 青森 (41)、北海道 (31)、和歌山 (14)、長崎 (9)	

種類	5月の価格情報			6月の価格情報			生育及び価格の7月の見通し	
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格		生育及び価格の7月の見通し		
		下旬	上旬	中旬				
い	さといも	307	344	359	386	・入荷見込量：326t (-) ・主産地：宮崎(37)、鹿児島(36)、輸入(19)、千葉(6)	・宮崎産及び鹿児島産は、昨年並みの出荷となり、今後も昨年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、昨年並みに推移する見込み。	
		422	347.9	409	421	・入荷見込量：104t (-) ・主産地：宮崎(40)、鹿児島(39)、輸入(16)、沖縄(6)		
も	ばれいしょ	131.8	96	131.8	93	95	・入荷見込量：5,310t (97) ・主産地：茨城(31)、千葉(19)、長崎(17)、静岡(15)	・茨城産及び千葉産は、降雨による掘り取り作業の遅れから、やや少なめの出荷となっているものの、今後は昨年並みの出荷の見込み。長崎産は、順調な出荷となっているものの、出荷の終盤となり、今後は出荷量が減少する見込み。静岡産は、玉の肥大も良好で、順調な出荷となっているものの、出荷の終盤を迎え、今後は減少する見込み。 ・長崎産及び静岡産の出荷が減少すると見込まれることから、昨年を下回っている価格は、昨年並みに近づくと見込み。
		131.8	102	131.8	98	98	・入荷見込量：2,800t (89) ・主産地：長崎(45)、北海道(26)、千葉(8)、静岡(8)、熊本(7)	

- 1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
- 2) 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
- 3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック
- 4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは、前年実績。
- 5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
- 6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

年	生鮮野菜の購入数量及び購入金額 (1人当たりの購入数量と購入金額)								主要野菜の小売価格(東京都区部)					
	過去5か年平均		平成24年		平成25年				キャベツ			レタス		
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)	前年比	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102	187	203	109	579	904	156
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95	203	204	100	555	722	130
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96	207	181	88	512	434	85
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95	248	207	83	466	426	91
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96	175	133	76	369	318	86
6月	5,048	1,881	5,103	1,875		0		0	140	152	109	338	288	85
7月	4,421	1,691	4,386	1,675		0		0	149		0	308		0
8月	4,318	1,689	4,245	1,618		0		0	138		0	414		0
9月	4,839	1,783	4,916	1,703		0		0	142		0	526		0
10月	5,280	1,840	5,242	1,761		0		0	150		0	467		0
11月	5,030	1,630	5,039	1,602		0		0	155		0	385		0
12月	5,140	1,837	5,169	1,888		0		0	148		0	495		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」・過去5か年平均は、平成20～24年の平均。

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
1) 過去5か年平均は、平成20～24年の平均。
2) 平成25年6月の値は、6月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

区分	野菜の輸入数量 (単位：トン、%)								主な野菜の輸入数量 (単位：トン、%)				
	平成23年		平成24年		平成25年1～5月		平成25年5月		品目	輸入先	平成24年5月(A)	平成25年5月(B)	(B)/(A)
	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比									
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	378,742	79	67,807	78	たまねぎ	合計	27,963	16,987	61
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	769,106	99	175,508	99		中国	20,766	14,035	68
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	1,147,848	91	243,315	92		ニュージーランド	5,426	1,422	26
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	558,388	90	113,477	91	にんじん	合計	6,264	5,508	88
中国産シェア	52		51		49		47			中国	4,904	4,853	99
										ニュージーランド	1,067	504	47
									ねぎ	合計	4,161	4,380	105
										中国	4,158	4,361	105

資料：ベジ探 (原資料) 財務省「貿易統計」

資料：農林水産省「植物防疫統計」。平成25年5月は、速報値である。

4 トピック — 野菜の小売価格について —

本年4月から主要9都市における野菜の小売価格の調査を行っており、6月までの3か月の動向について見てみた。

最多販売単位の小売価格は、トマト以外の野菜は、おおむね100～200円の範囲内であった。野菜は、調理の素材として利用されることが多いが、値頃感がおおむね100円台に設定されていることがわかる。一方、トマトは、200円台で販売されており、他の野菜よりも高く販売されている。

また、主要9都市のキログラム当たりの小売価格を全国平均と比較すると、名古屋、広島、高松、福岡等が全国より低い品目が多い傾向が見られるが、この時期の産地が東海や西日本に多いことも一因ではないかと考えられる。

なお、キログラム当たりの小売価格を同時期の卸売価格で除して比較すると、この3か月間では、はくさいが一番倍率が高く、次いで、にんじん、ばれいしょの順となっている。一方、なすやほうれんそうは、低くなっている。また、変動が大きいのは、はくさい、レタス、キャベツ等の葉菜類で、なす、ピーマン等の果菜類、ばれいしょ、にんじん等は変動が小さい状況が見られる。これは、販売単位ごとの小売価格を値頃感のある範囲に納める必要がある中で、どちらかというと葉菜類は販売単位の変更がしにくいものの、果菜類等は販売単位の変更がしやすいことも影響しているものと考えられる。

野菜の小売価格については、今後も引き続き調査することとしており、いろいろな場面で活用していただきたい。調査結果は、こちらから。

図1 最多販売単位の小売価格

図2 キログラム当たりの小売価格が全国平均と比較して低かった品目数

図3 キログラム当たりの小売価格と卸売価格の比較(小売価格/卸売価格)

図4 主要都市の小売価格と卸売価格の変動

資料：農畜産業振興機構「野菜小売価格動向調査」、農林水産省「青果物日別取扱高結果」

(注)
1 札幌市、仙台市、東京23区、金沢市、名古屋市、大阪市、広島市、高松市、福岡市の9都市で、月1回(原則として毎月第2金曜日)、調査を実施。1都市につき、10店舗調査。調査品目は、さといもを除く指定野菜13品目。
2 「最多販売単位の小売価格」は、品目ごとに1店舗につき一番販売面積が広いと報告された販売単位の小売価格で、図1は品目ごとの平均値をグラフにした。
3 「キログラム当たりの小売価格」は、1店舗につき1つ報告されたkg当たりの価格の平均値。
4 図3で使用した「卸売価格」は、全国の主要な中央卸売市場(10市場)の卸売価格の平均値で、図4の「卸売価格」は、調査都市にある中央卸売市場の調査日が属する旬の卸売価格。